

【 注射 】**８７８ 乳癌のがん化学療法時のペグフィルグラスチム（遺伝子組換え）の算定について****《令和８年９月３０日》****○ 取扱い**

乳癌のがん化学療法時において、傷病名に「発熱性好中球減少症の発症抑制」がない患者に対するペグフィルグラスチム（遺伝子組換え）（ジーラスタ皮下注 3.6mg）の算定は、原則として認められる。

○ 取扱いを作成した根拠等

ジーラスタ皮下注 3.6mg の添付文書の効能又は効果は「がん化学療法による発熱性好中球減少症の発症抑制」と記載されており、日本癌治療学会がん診療ガイドラインにおいても、乳癌の薬物療法時の、G－C S F の一次予防投与は強く推奨され、エビデンスの強さも A（強い）とされている。

以上のことから、乳癌のがん化学療法時において、傷病名に「発熱性好中球減少症の発症抑制」がない患者に対するペグフィルグラスチム（遺伝子組換え）（ジーラスタ皮下注 3.6mg）の算定は、原則として認められると判断した。